

オーガニックマン

亀井千里

富士宮市北山にて田畑をやっており、屋号は『オーガニックマン』といます。

この屋号は、少し変わった屋号を付けたいと考えていて、ふと浮かんだものです。

しかし、後になって、現代の社会が抱える多くの問題は、「多くの人がオーガニック(有機的)な生き方をしていないからではないか」と思うようになってきました。

皆が幸せに生きられる世の中は、ただ、隣の人同士が分かり合い、繋がって、笑顔でいれる社会で、機械の部品のように、多くの人が一つの職業や技術にこだわって、他の立場の人の気持ちがかたからず、お金という潤滑油なしでは、繋がれず作動しないような都会的な専門家社会ではないと思います。言うは易しです。まずは僕自身、機械的でない、オーガニックであることを指針とすることにしました。



収穫した野菜を抱える筆者



草鞋作りを習う
(旧八郷町にて)

出身は東京都。2010年までは秋葉原にあるIT系の企業に勤めていました。

そこに居た時『奇跡のリンゴ』の木村秋則さんの著書を読み感銘を受け農業に興味を持ちました。

その後いくつかの農業体験を経て茨城県の筑波山の東、八郷(やさと)にある就農支援施設『百姓の家スワラジ』に、退職後1年2ヶ月住みましました。

こちらにいた寛次郎さんという30年以上有機農業をやっている方に特に影響を受けました。

スワラジという名は寛さんが付けたもので、インドのガンジーが使った『自立・自給』を意味するヒンディー語。

『自立・自給を基として百の事をする』『百姓』。出来るだけ機械を使わず、効率より能率の重視により生活の楽しみは働くことと共に在れる。

今あるその考えもここでの暮らしから生まれた考えでした。



おーそれ宮朝市で
野菜を販売

2011年3月、東北震災と福島原発事故が起こりました。茨城県にある『百姓の家スワラジ』に住み、有機農業で生計を立てようと志して3ヶ月が経った頃でした。

しかし、有機農業にとって、近県の原発事故と放射能物質の拡散は、多くの顧客の減少が起こった上、自然の循環・食の安全を重要なものとし、身土不二を身上とする方も多い有機農家には特に深刻で、「この場所では有機農業をやってよいのか」という問題を突き付けました。

僕が静岡県富士宮市に移動するという選択をしたのは、原発事故後、日本各地の有機農家のお話を聞いた時、生まれ育った福島に留まって農業を続け地域を復興させたいという方に出会い、その想いは、長年に渡って築かれた周りの人との関係性の上にあるように感じました。

(2014年11月記)

オーガニックマン 亀井千里

就農：平成25年5月 畑の場所：富士宮市 精進川

栽培面積：畑30a 栽培作物数：30種類

主力作物：小松菜、カブ、じゃがいも、人参など

連絡先：www.facebook.com/chisatony?fref=ts

